

令和5年2月犬山市議会定例議会会議録

第7号 3月8日（水曜日）

◎議事日程 第7号 令和5年3月8日午前10時開議

第1 第1号議案から第28号議案まで、
第30号議案から第39号議案まで及び第46号議案
（議案質疑）

第1類 第1号議案から第28号議案まで、
第30号議案、第31号議案及び第46号議案
第2類 第32号議案
第3類 第33号議案から第39号議案まで

◎本日の会議に付した案件

日程第1 第1号議案から第28号議案まで、
第30号議案から第39号議案まで及び第46号議案

◎出席議員（17名）

1番	畑 竜介君	12番	中村 貴文君
2番	小川 清美君	14番	水野 正光君
3番	長谷川 泰彦君	15番	三浦 知里君
4番	大井 雅雄君	16番	諏訪 毅君
5番	岡村 千里君	17番	久世 高裕君
8番	鈴木 伸太郎君	18番	柴山 一生君
9番	柴田 浩行君	19番	吉田 鋭夫君
10番	大沢 秀教君	20番	ビアンキ アンソニー君
11番	玉置 幸哉君		

◎欠席議員（1名）

13番 岡 覚君

◎職務のため出席した事務局職員の職・氏名

事務局長兼議事課長	新原 達也君	議事課長補佐	大鹿 真君
主査 補	高橋 万祐子君	会計年度任用職員	会津 利江君

◎説明のため出席した者の職・氏名

市長	原 欣伸君	副市長	江口 俊也君
教育長	滝 誠君	経営部長	鈴木 良元君

市民部長兼防災監	中 村 誠 君	健康福祉部長	高 木 衛 君
都市整備部長	森 川 圭 二 君	都市整備部次長	飯 吉 勝 巳 君
経済環境部長	中 村 達 司 君	教 育 部 長	中 村 浩 三 君
子ども・子育て監	長 瀬 尚 美 君	消 防 長	大 澤 満 君
企画広報課長	井 出 修 平 君	総 務 課 長	長谷川 敦 君
地域協働課長	中 村 亘 君	税 務 課 長	倉 知 千 明 君
高齢者支援課長	上 原 敬 正 君	保険年金課長	舟 橋 きよみ 君
健康推進課長	松 澤 晶 子 君	土木管理課長	吉 田 昌 義 君
下水道課長	梅 村 幸 男 君	学校教育課長	大 黒 澄 子 君
学校教育課主幹	高 木 順 二 君	子ども未来課長	上 原 眞由美 君
子ども未来課主幹	伊 藤 真 弓 君	子ども未来課主幹	小 幡 千 尋 君
消防本部消防次長	水 野 明 雄 君	消防総務課長	櫻 井 俊 也 君

午前10時00分 開議

◎議長（三浦知里君） ただいまの出席議員は、17名であります。

通告による欠席、13番 岡 寛議員。

定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。

議事日程に従いまして、会議を進めます。

日程第1 第1号議案から第28号議案まで、第30号議案から第39号議案まで及び第46号議案

◎議長（三浦知里君） 日程第1、第1号議案から第28号議案まで、第30号議案から第39号議案まで及び第46号議案を議題といたします。

お諮りいたします。第1号議案から第28号議案まで、第30号議案から第39号議案まで及び第46号議案を一括議題とすることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

◎議長（三浦知里君） 異議なしと認め、さよう決しました。

これより議案質疑に入りますが、審議の都合上、配付いたしました議事日程に記載のとおり、これを3つに分類し、質疑を行いたいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

◎議長（三浦知里君） 異議なしと認め、さよう決しました。

続いてお諮りいたします。本日の議案質疑は、議事の進行上、第1類にいたしたいと思えます。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

◎議長（三浦知里君） 異議なしと認め、さよう決しました。

第1類、第1号議案から第28号議案まで、第30号議案、第31号議案及び第46号議案に対する質疑を行います。

ご発言を求めます。

1番 畑 竜介議員。

◎1番（畑 竜介君） おはようございます。1番、畑 竜介です。私からは第1号議案、犬山市個人情報保護に関する法律施行条例の制定についてから、1件、お伺いします。

全員協議会資料の2ページ、3ページです。

3ページの下の方の影響のところに、開示請求から決定までの期間を「速やかに」と今までしていたものを、新条例には決定までの期間を「14日以内」と、また期間延長が「30日」と明確化されたというふうに記載がありますが、これにより、職員の業務負担の影響はないか、1点確認させてください。

◎議長（三浦知里君） 当局の答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 畑議員の質疑にお答えいたします。

今回の条例改正によって、国がそういう方法、自治体も傘下に置く法を施行しました。その中では、改正法の中では30日という、今我々が取り組んでいる個人情報保護条例の中での規定よりも緩い設定になっておりましたが、やっぱり開示をしていくことについて、一種のサービスですので、そのサービスの低下を伴わないようにということで、現行と同じ日数になるようにさせていただきました。

したがって、現行と変わりませんので、職員の負担が増えるということではありません。

◎議長（三浦知里君） 他に質疑はありませんか。

3番 長谷川泰彦議員。

◎3番（長谷川泰彦君） 3番、長谷川泰彦です。私からは第5号議案で1点、第46号議案で1点、計2点、質疑させていただきます。

まず、第5号議案、犬山市附属機関設置条例の一部改正についてからお尋ねいたします。

全員協議会資料7ページ、これは犬山市下水道事業経営戦略改定審議会の設置ということで、審議会委員7人以内と選任されるというふうになっています。今回、提出された審議会規則がありますが、その中を見れば構成員は分かるんですが、1点、かなり経営戦略ということで、専門性がより求められると思いますが、その点、構成員を選ぶときに、どういうふうに考えてみえるのかお尋ねいたします。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

森川都市整備部長。

◎都市整備部長（森川圭二君） 長谷川議員の質疑にお答えしたいと思います。

今、ご質問がありました今回の条例の一部改正に合わせて、規則も定めております。その中で学識経験者、公共的団体等の構成員、下水道使用者と、あとその他市長が定める者というようなこととさせていただいております。

その中で、他市の自治体も同じような経営戦略をつくっております。そういった中で、どのような方が構成員になっているかというのも参考にしながら、また通ればですけども、学識経験者と言えば、大学の先生の中で、企業会計ですとか、そういった下水道に詳しい方がおみえになれば、そういう方を選んでいきたいというふうに思っています。

公的団体ということであれば、市民代表というような形で、町会長さんですとかというこ

とを、今想定をしているところです。

いずれにしても、今後、他の自治体のそういった策定委員会の構成メンバーを参考にしながら、具体的な選定については検討していきたいというふうに考えております。

◎議長（三浦知里君） 長谷川議員。

◎3番（長谷川泰彦君） ありがとうございます。2点目、伺います。

第46号議案、工事請負契約の締結について、犬山南小学校改築工事についてであります。この第46号議案は、南小学校改築工事とした工事内容については、学校教育のほうになると思いますが、入札契約そのものについてお聞きいたします。

全員協議会追加資料3ページの一般競争入札執行調書を見ますと、入札金額が同額の2社の札が入っています。この2社の中で落札された青協・名稲特定建設工事共同企業体に決定された、その理由をお聞きいたします。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） それでは、長谷川議員の質疑にお答えします。

今回の入札によって、執行調書をご覧いただいたとおり、3者が入札されて、2者が同額ということになっております。その2者については、最低制限価格という金額で入札をしていただいたということになります。この場合は、地方自治法の施行令でくじによる落札者の決定ということになります。

かつてはこの庁舎の建設もそうだったんですが、おみくじのようなこういうくじで、直にその場で引いていただくというようなくじをやっておりましたが、今、電子入札のシステムが入っておりますので、この電子入札のシステムの中にそのくじの機能も含まれております。

業者が入札される際に、システムのことはちょっと複雑ですけども、3桁の数字を自分で入力をされます。それプラスいわゆる入札をした時間で割り振られる、また3桁の数字があるんですけども、その3桁を数字を使ってくじをする仕組みになっております。

そういうことですので、市のほうが恣意的に何かを操作するということはございませんので、システムの中でくじが成立しているということになります。

◎議長（三浦知里君） 長谷川議員。

◎3番（長谷川泰彦君） ありがとうございます。よく分かりました。

再質疑、1点させていただきますが、落札金額が入札予定価格の約80%の落札金額になっていると思います。今、物価高騰、これがどういうふうに工事期間中に上振れするか、どういうふうになるか分かりませんが、工事期間中の物価高騰による材料費の高騰になった場合、普通、工事に何かあったら、設計変更で契約変更すると思うんですが、物価高騰で材料費が高くなった場合のそういう取扱いというのは何か契約の上で関係、関わってくることはあるんでしょうか。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 長谷川議員の再質疑にお答えします。

今がかなりもう高い時点かなとは思っておりますが、かつてはそういう業者の側に何か落

ち度がなくて、もうそういう部材が物すごい高騰によって、とてもその金額じゃできないという事態も確かにございましたので、そういうものは約款等にも盛り込んでありますので、その時点でそれを認めていくということもありますので、具体的にどうなったかというのは、今ここで申し上げられませんが、約款上ではそういうものが規定されております。

◎議長（三浦知里君） 他に質疑はありませんか。

11番 玉置幸哉議員。

◎11番（玉置幸哉君） 11番、玉置幸哉です。私のほうからは、定年延長の引上げについて、第14号議案から第24号議案、複数にわたるんで、全員協議会資料の別紙のほうを見ながら質疑をしていきたいと思います。

3点、お願いします。

この案件については、退職金の問題だったり賃金表の書き換えだったり様々あると思うんですけど、まず1点目、組合との協議ですね、その辺はどうなっているのかということがまず1点。

それから、別紙のほうの5ページに記載されているんですけども、本人による選択ということで、2つの選択肢ですね、正規職員ということと、定年前再任用短時間勤務職員ということの選択制で2つというふうになっていますが、そのほかに選択の余地は何かあるんですかというのが2点目。

3点目です。段階的に定年が65歳というふうになっていきますので、60歳より5年たつわけですから、身体的にも体力的にも多少やっぱり劣ってくるのではないのかなというような観点から、一般職というよりも、消防職員とか保育職の職員の方々、やっぱりその辺の体力的な心配も出てきますので、安全衛生上の問題はどうか。また、その年代に対して研修等々はされるのか、考えているのか、3点お尋ねしたいと思います。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） それでは、玉置議員の質疑にお答えします。

1点目、組合との協議ということですが、組合のほうとは随時、協議というよりは意見交換という形で、情報の共有をさせていただいております。その中では、特に組合のほうから反対するような特段の意見はもらっておりませんので、今後も労使相互に協力し合いながら、改善を図っていききたいなというふうに思っております。

それから、定年延長になった者の選択肢ということで、資料のほうには2つということですが、ほかにないのかということですが、あと1点、あるとすれば、そのまま退職すると、市役所とは関わりのない形で、今後退職されるという選択肢が一つあるかなというふうに思います。

それから、3つ目です。議員がおっしゃられるように、60歳になれば、例えば体力の低下だとか、目が老化になるとか、持病がやっぱりあるぞと、何か自分のことを言っているようでつらいんですが、おっしゃるように、保育職、特に事務よりも保育職や消防職というのは、やっぱり事務職よりは体を使う、動くということが必要になりますので、そういう実際にじゃあ、役職定年を迎えて、それがやれるのかという不安もあるかと思います。

そういうこともありますので、今、現場のほうと、これはちょっとどういう対応がしていけるのかという人事の担当のほうと打合せをしているところです。例えば保育職であれば、複数担任の未満児クラスをお願いするだとか、フリーの保育士として、園全体を見てもらうというようなものだとか、各園を巡回して、経験を生かしたアドバイスをもらうような職についていただくというようなことが考えられるかなというふうに言っております。

加えて、消防職のほうでは、いわゆる消防本部での勤務プラス消防署の勤務においてでも日勤の者が選択できるかなということは、今、模索しているということです。

ただし、令和5年度、これが改正されて、今後5年間で60歳を迎える保育職は1名です、5年間で。消防職に至っては、5名ということですので、今すぐ物すごく困った困ったという事態にはちょっとならないかもしれませんが、とはいえ、対象者が出るのは確実ですので、しっかりと検討していきたいというふうに思っています。

◎議長（三浦知里君） 他に質疑はございませんか。

2番 小川清美議員。

◎2番（小川清美君） 2番、小川清美でございます。私からは第4号議案から1点、第7号議案から2点、計3点の質疑をさせていただきます。

まず、第4号議案、総合計画審議会設置条例の一部改正についてでございます。

全員協議会資料では、6ページになろうかと思いますが、役職者ということで、条例のほうを見てみますと、例えば1号の市議会議員であったり、2号の公共的団体の役職者、いわゆる当て職の方がこれに当たるのではないかなあとは思っております。そういった方が当て職でなくなっても、引き続き委員として残留できるというふうに理解をいたしておりますが、その役職を退いた方が、第3条の4号でいうところの、市内在住・在勤・在学といった要件は、やはり失職しても、その要件はクリアしなければならないということで解釈してよろしいかお尋ねをいたします。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 小川議員の質疑にお答えします。

今回の条例改正は、今、議員がおっしゃられたところとはちょっと違っておりまして、3つ目の学識経験を有する者を想定したものでございます。これは、いわゆるその方の個人の見識を見て、その方に議員を委嘱したという方がいらっしゃるしまして、その方が所属を変えられた、例えば大学を変えられた。その人が持っている見識やそういうものは変わらないんだけど、大学を移籍されたというようなパターンがございましたので、その場合に、任命したときのいわゆる役職、どこどこ大学の何々教授というようなものが変わるものですから、それがいわゆる何と言うんですか、継続できないということになったという事態を踏まえて、今回の変更をさせていただいたということです。

それに伴って、ほかの部分も、例えば今議員がおっしゃられた当て職の方も、例えば市議会議員を辞められても継続できるという条例にはなってしまいますが、ただ、根本的に当て職、例えばある団体の方をお願いしていると、その方が団体を辞められたときには、代わりの方が必ず出ますし、その方については、基本的にはご自分で、今までもそうですが、自分

から自ら退かれるということを想定しておりますので、よろしくお願いします。

◎議長（三浦知里君） 小川議員。

◎2番（小川清美君） ありがとうございます。2つ目でございます。

第7号議案、犬山市税条例の一部改正についてでございます。

全員協議会資料は9ページになります。超過税率の延長ということで、この先5年間も約1億7,000万円の税収があるということは、非常にありがたいことだと思っておりますが、この税率適用は、財政上、その他の必要がある場合というふうになっているということでございますので、その見解について、まずお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

中村市民部長兼防災監。

◎市民部長兼防災監（中村 誠君） それでは、小川議員のご質疑にお答えいたします。

この超過税率につきましては、全員協議会資料でもお示ししておりますとおり、当市では教育施設及び都市施設等の整備に係る事業の財源に充てる目的で、昭和53年の導入以来、5年ごとに適用期限を延長してきました。

超過税率分の納税額につきましては、近年の状況から、法人税割額全体の約2割程度を占めており、歳入における市民税収入が大きな役割を果たす中で、当市にとって教育施設などの整備に重要な財源として考えています。

ちなみに令和3年度の決算に係る教育施設及び都市施設等の整備充実に係る事業費を見ますと、総事業費で約11億2,000万円、うち特定財源が約5億9,000万円、一般財源が約5億3,000万円となっております。一般財源の5億3,000万円が、この超過税率の相当分の対象となっているという状況になります。

また、今議会でも、一般質問の中でも、学校施設ですとか、都市施設の議論もございましたが、今後もさらにこうした整備の充実というのが積極的に進めていかなければならない中で、超過税率の相当分は財源として活用していく必要があるというふうに判断して、5年間延長させていただくものです。

よろしくお願いします。

◎議長（三浦知里君） 小川議員。

◎2番（小川清美君） ありがとうございます。2点目でございます。

この超過税率の件でございますが、県内38市のうち、15市しか導入をしていないということでございます。税収の面からは、プラスでありますけども、一方、企業誘致という点からいきますと、マイナス要因であると考えております。この点について、どう捉えていらっしゃるのかお聞きをしたいと思います。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

中村市民部長兼防災監。

◎市民部長兼防災監（中村 誠君） それでは、次のご質疑にお答えさせていただきます。

県内で超過税率を導入しているのは、今、ご質疑にもあったように38市中15市ということで、約4割が導入している状況ですが、確かに超過税率の有無というのは、企業側にとっては市内への立地などの判断材料としては、デメリットの一つになろうかなというふうに思い

ます。

一方で、当市としては、企業誘致に関しまして、産業集積誘導エリアへの工場等の新築または増築に対する立地奨励金制度を設けておりまして、市内の企業立地の促進を図っております。

また、企業再投資促進事業補助金として、企業等の市外への流出防止のため、20年以上の市内立地事業者に対しまして、工事等の新增設の再投資に要する事業経費の一部補助も行っているところでございます。

これら企業にとってメリットとなる当市の制度を活用された事業所は、これまでも実績もございますし、今後もこうした市内への工場等の立地や、既存工場等の拡大に有効な制度を積極的に活用しつつ、財源の確保にも努めたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

◎議長（三浦知里君） その他質疑はございませんか。

8 番 鈴木伸太郎議員。

◎8 番（鈴木伸太郎君） 8 番、鈴木です。第25号議案から2件、第27号議案から1件、質疑させていただきます。

第25号議案、犬山市行政財産の目的外使用料条例等の一部改正についてなんですが、見直しということで、値上げ率、値下げ率の率のばらつきがあるのはなぜかということ、合わせてトータルでマイナス213万8,000円の収入減が見込まれるということで、今、世の中値上げ傾向のところ、何でここで、電気代とかも光熱費も高くなってきたところで、なぜここで値下げをして、トータルで収入を減らしてしまうのか、お聞かせください。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 鈴木議員の質疑にお答えします。

施設によって、もしくは施設の中の部屋によって、値上げになったり値下げになったりということで、議員の疑問も非常に分かるわけですが、具体的にどうしてというのは、なかなか明確にお答えすることはできませんが、恐らくですが、これは平成31年にこの方式、いわゆるランニングコストを負担していただくという方式に一挙に変えました、料金の算出の根拠を。

それまでは、じゃあ、どうだったかというと、特に具体的な根拠を持つてはいないということですね。というのは、恐らくですが、できるだけ早くできた施設があります。例えば、今壊してしまった福祉会館などが例に挙げられると思いますが、福祉会館のこの部屋が、この値段だから、その後造ったもの、同規模だったら、こういう価格にしようというか、使用料にしようというような決定の仕方を多分してきたと思います。もしくは、例えば文化会館のような施設があれば、同時期に他市町のホールの大きさと比べて、これぐらいの金額だろうという決め方を多分してきたと思います。

その後は、恐らく使用料の改定というのは、私の記憶では消費税が乗ってきただけで、改定されてきたときに、使用料を直してきたわけです。そうすると、もともとの金額の根拠というのは、今我々が改定しようと思っているものと随分考え方が違うので、どうしても開きが

出てきているということだと思います。それが高かったり、もともとの設定が、今の考え方からすると高かったり安かったりということ、それが今、是正されつつある、今のやり方に適合しつつあるという段階だと思いますので、それによって高いもの、値上げをするもの、値下げをするものが現れてきたというふうに考えております。

今、こういう時期に結果的に値下げになるのかということに対してですけども、これは使用料の方針を決めたときに、先ほど申し上げたように、利用者にいわゆるランニングコストの一部を賄っていただくというルールを決めたものですので、それが反映されたということです。

ただ、今回の使用料の算定に当たっては、資料のほうにも書いてございますが、今年度、まだ決算が出ておりませんので、今年度特に光熱水費等が高騰しておりますが、その分は今回反映がされてないということになります。だから、令和3年度までの過去4年間分を平均して算出しておりますので、若干、タイムラグができませんが、次の改定のときに今回の影響額がどうしても乗ってくるかなというふうに思います。

◎議長（三浦知里君） 鈴木議員。

◎8番（鈴木伸太郎君） まだ平成31年のときの改正のとき、私もかなりここは突っ込んだ記憶がありまして、ただ、考え方を変えたんだなということで、そこはそこで理解して、今度の改正で、まだ過渡期なのかなというふうな説明を受けて、じゃあ、過渡期なんだなというふうで、そこは理解しました。

その213万8,000円の収入減について再質疑なんですけど、最近私、2か所の市の施設から修繕の相談を受けて、1つは、流用ですぐ直しますということで、今年度中に直してもらおうということで、すぐ答えが来ました。もう1個は、予算がないから来年度回しにするというふうな話で、実はそれがもう多分2年か3年前からずっと同じように、ある施設の照明器具がぱかぱかして、すごい使いづらいよということで、来年度直しますということだったんですが、いや、それではちょっと使っている市民は税金払っているんで、その税金の中ですぐに直してもらわないと困るということで、何とか無理言って、今年度中に修繕して、もうしていただきました。それはありがとうございますけど、要は、これからどんどん老朽化していくじゃないですか。なので、エアコンとか、要は電気設備とか、ガスもあるかもしれない、水道もそうですし、そういうランニングコストをもっと積んでおいたほうが良いというふうに思うんです。

そうすると、今こうやって結果的に値下げる議案が出てきましたが、ちょっとプラスにしたいほうが良いんじゃないかという議論があったと思うんですが、どうなのでしょう。そこら辺、経過を教えてください。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

江口副市長。

◎副市長（江口俊也君） 私のほうからちょっと答弁させていただきたいと思いますが、今、公共施設の使用料については、先ほど経営部長が答弁をさせていただいたとおり、前まで透明化されていないという部分について、この議会でもご指摘をいただいたことがあったかと思います。それを受けて、平成31年のときに、こういうふうでということで、議会のほう

にもお示しをしながら進めてきています。

今回また改定ということになるんですが、内容についてはランニングコスト、過去の3年分のランニングコストの平均値で見えていきますので、今現在の物価上昇分というのは、どうしても次の改定のところに行くということになりますので、その点については、そういう仕組みということで、ご理解をいただきたいと思います。

それから、もう一つ、施設の修繕とかの話ですが、これについては、これも私が記憶にあるのは、平成30年頃、この議会だったんですけども、当時、結構予備費の充用でクーラーが壊れたとか、何とかが壊れたとかというふうで、予備費の充用を出させていただいていました。その際に、予防保全にもうちょっと予算をかけたらどうやということをご指摘いただいて、以後、結構予算をかけています。結構というところと言いかたが変ですが、やっぱり壊れそうなやつは前もって手当しましょうというふうにしてきたつもりです。中にはちょっと高額なものもありますので、どうしてもそれは計画的にというところはあると思いますが、壊れる前に、できれば処理をしたいという形でさせていただいています。

それについては、予算編成のときに、タイミングがうまく合うもの、あるいは補正予算のときにタイミングがうまく合うものについては、そこで上げていきますし、その編成のところとちょっとタイミングがずれているものについては、大変恐縮ですが、予備費を使わせていただいて、あとで報告をさせていただくというような形を取らせていただいています。

基本的にはそういう考え方でやっていますので、今、鈴木議員から、少し積んでおいたらどうやとかというお話をいただきましたが、これについては、財産を売ったときのものを、土地とか売ったときのものを基金に積み立てて、施設の修繕に充てておりますので、既にそういうやり方もさせていただいております。

公共施設もいろいろありますし、修繕の内容もいろいろですので、なかなかすぐに手が出せるものと出せないものがありますが、基本的にはそういう形で、できるだけ市民の方にご不便をかけないように、これからも努めていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。

◎議長（三浦知里君） 鈴木議員。

◎8番（鈴木伸太郎君） 大方の考えは理解できました。先ほど私がお伝えした2件というのは、もう多分、すぐに直せばいいだろうみたいのところだったんで、そこら辺、皆さん、意識してください。

再々質疑は、大したことじゃないんですけども、全日使用と、午前、午後とか、区分別の使用と、区分別で借りたほうが、全日よりも安いよねという状況が過去あって、ここら辺、修正されとるようなんですが、もうこれは全部改善されたと判断してよろしいですか。全部ちょっと調べきれなかったんで、そこら辺の確認です。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 鈴木議員の再々質疑にお答えします。

申し訳ございません。全てを把握をしておりますので、ひょっとすると昔は多分、個別で借りたほうが高かったということですね。通しで借りたほうが安くなるというパターンの

ものを作っていたと思いますけども、今回、全て確認したわけでないですが、根本的な考え方としては、要するに面積と時間で平準化していますので、時間が一緒になれば、要するに時間が一緒で面積が変わらなければ、その時間に応じてという金額になりますので、足し算が成立するかなというふうに思います。

それから、少し付け加えさせていただくと、さっきの再質疑のところで、どんな議論があったかというところで、少し加えさせていただきたいんですが、今回見直しのときに、やっぱり施設ごとによって、いわゆる稼働率が違うということを少し念頭に置かなきゃいかんのかなという議論もありました。

例えば、稼働率が低い施設は、要するに100%利用を見込んで、市が残りの部分を支払っているということになりますので、本来は稼働率が高ければ、たくさんの方でそれを見てもらっておるんですけども、稼働率が低い場合は、少ない方で、本当は高い金額を払っていたかなきゃいけないというのが本当の考え方だと思いますが、それをやってしまうと、悪循環を生んでいくかなと。利用料金が高くなるし、余計使われなくなるというようなこともありましたので、それはちょっと今回、盛り込むことをやめました。

もう1点は、もともとの今言った市民の皆さんに負担していただく金額というのを、全体の50%で見えています、どの施設も、ほぼ。じゃあ、それが正しいのかということになりますので、ひょっとすると施設によっては趣味で使っていただく部分というのは、やっぱり利用者で100%見てもらう必要があるよねだとか、ちょっとこれは福祉系の施設ですから、市のほうがもうちょっとたくさん見てやったほうがいいのかなとかというところがまだ見極められてない部分もありますので、今後、次の改定するときには、そういったとこもちょっとしっかり見極めていく必要があるかなというふうに思っています。

私、全部確認していないと言いましたが、全てチェックされておるようですので、大丈夫だと思います。

◎議長（三浦知里君） 鈴木議員。

◎8番（鈴木伸太郎君） 了解しました。

2件目です。これ第27号議案ともちょっと関連する話なんですけど、1つの施設で値上げと値下げと両方あるよねというところなんですけれども、第25号議案ですと、1つ、例えば市民文化会館のホールは値上げしていますが、リハーサル室等々は値下げしているということで、これも稼働率とか、そういうところが関連しているのかなと思うんですが、大きな催事になれば、ホールを借りて、リハーサル室とか会議室とかも借りて、全館借りてみたいなふうなことになるのと、トータルでは値下げみたいなことになっているようなんですが、そのトータルは別として、考え方として、ホールは値上げ、リハーサル室等は値下げというのは、先ほどのご説明と同じなのかもしれませんが、もう一度確認のため聞かせてください。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 鈴木議員の質疑にお答えします。

先ほどと同じような話になると思いますが、特にこれ私が考えるところですけど、ちょっと正しいかどうか分かりませんが、市民文化会館のような大きな施設の中で、いわゆるホー

ルと小さな楽屋の対比ということを考えたときに、面積案分をしていますので、恐らくそれが影響して、こういう結果になっているんだろうなというふうに考えます。一概に必ずそうだという分析まではしておりませんが、この結果を見ると、そういうことが言えるのかなというふうに思います。

◎議長（三浦知里君） 鈴木議員。

◎8番（鈴木伸太郎君） きっとそうなんだろうなと思っていました。それがしゃくし定規感をちょっと感じざるを得ないんで、また改定るとき、3年後になっちゃうのかもしれないですが、よろしくお願いします。

3件目です。同じようなことです。第27号議案、楽田ふれあいセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について、これも畳の間、いろりの間なんていうのは2割値下げなんですけど、多目的ホールは2割値上げになっています。この理由をちょっと教えてください。

◎議長（三浦知里君） 当局の答弁を求めます。

中村市民部長兼防災監。

◎市民部長兼防災監（中村 誠君） それでは、第27号議案のご質疑にお答えしますが、今、経営部長が説明したとおり、市全体の基準で今回見直しておりますので、この基本方針に基づく見直しの中で、こういった結果になったということでご理解いただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎議長（三浦知里君） 他に質疑はございませんか。

5番 岡村千里議員。

◎5番（岡村千里君） 5番、岡村千里です。私からは、第1号議案から4点、それから、第14号議案から第24号議案の定年延長について1点、質疑させていただきます。

では、まず、第1号議案、犬山市個人情報の保護に関する法律施行条例の制定について。

これはこれまで各市町が個人情報保護条例を制定していましたが、国のほうが個人情報保護法を決めたもんですから、各市町のものを廃止して、この保護法に基づく条例を置くということです。

まず、1件目ですけれども、全体的なことについてお伺いをいたします。

何がどう変わるのかということと、それから、個人情報の保護という点からは、これが維持されるのでしょうか、お答えいただきたいと思います。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） それでは、岡村議員の質疑にお答えします。

今回の改正は、今、議員がおっしゃられたように、個人情報の保護に関する法律が改正されて、我々、地方自治体もそのいわゆる傘下に入るといえるのか、対象になるということで、もともとあった条例とかぶることになるもんですから、その条例のほうを廃止して、新たにこの法を施行するためということですので、どちらかと言うと開示の手続を定めるという条例に変えるといえるのか、それをつくるということになるのかと思います。

ただし、じゃあ、個人情報に関することが何か大きく市の取扱いが変わるのかということですが、そういうことではございませんので、現在の運用と大きく変わることはございませ

ん。したがって、個人情報の保護についても、後退するものではないというふうに考えております。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） 再質疑をさせていただきます。

各市町、一律の感じになっていくんですけれども、例えば、自治体が独自の保護措置というのを加えるなど是可以するのでしょうか。

それから、各自治体の持っているいろいろなデータを、今回、電子計算機に結合ということも言われています。そうすると、大企業などのもうけのために外部提供するということとはつながらないのでしょうか。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） それでは、再質疑にお答えします。

今、議員がおっしゃられたように、全国統一のルールの中で、個人情報を保護していくということになるかと思います。その中で、今統一ルールと申し上げましたが、非常に法のほうで自治体が独自に何か制限を設けるということ自体が制限をされている部分があります。不開示情報の追加だとか、条例要配慮個人情報の規定と、こういったものについては、一部、独自に講ずることができるとなっていますが、大部分は独自に講ずることができないという規定になっております。

それから、ビッグデータの提供ということですが、これは都道府県や政令指定都市などが、事業者か事業者の提案募集を行うように定められたというものでございます。現段階では、当市として外部へ情報を提供するような想定はしておりません。将来的にはどうか分かりませんが、現状では今、そういうことは考えておりません。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） では、2点目です。原則的なことについていろいろと書きぶりが変わってきているものですから、前の条例では、個人情報の取得は本人からという記述がありましたが、今回のものにはそれがありません。それから、要配慮個人情報の取得の禁止についても、それに相当する条文がないんですね。ですから、この2点についてのことを、これまでと同じ、原則を変えずにやっていくのか、また、その要配慮個人情報の取得の禁止というものは受け継いでやっていくということによろしいのでしょうか。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 岡村議員の質疑にお答えします。

議員がおっしゃられた個人情報の取得を本人からという規定は、法のほうには今回外されておりますし、おっしゃられたように、要配慮個人情報の収集の禁止の規定も、法のほうにはございません。

先ほど申し上げましたように、自治体独自で何かを制限するということは禁止をされておりますので、それを設けることは基本的にはできません。したがって、とはいえ、個人情報や要配慮個人情報の保有に関しては、法令で定める所掌事務、または事務を遂行するた

めに必要な場合に限られるというふうになっておりますので、大きく個人の情報が何か外に出て、不利益を被るようなことは、基本的にはないというふうに考えています。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） では、3点目に行きます。先ほども言いましたけども、電子計算機に関することについてです。電子計算機の結合の制限の規定がこれまではあったんですけども、例えば市外のほうに結合してはならないとかの規定ですが、その制限がなくなるということですか。

ですので、この電子計算機の結合というのは、どの範囲まで可能となるのか、あるいはまた、先ほど言いましたように、この制限はなくなるという理解でいいのかどうかお示してください。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 岡村議員の質疑にお答えします。

議員がおっしゃられるように、いわゆるオンライン結合については、特段の制限が設けられていないというのは、今回の改正をされた個人情報に関する保護の法律のほうになっております。したがって、設けられていないということです。どこまでという表現は難しいですが、結合を拒むものはないということになるかと思えます。

ただ、これについては、そこでは制限はされませんが、いわゆるサイバーセキュリティ基本法の中で、そういった個人情報の取扱いについては、その水準を確保していくということが規定されておりますので、そちらのほうで情報をしっかり守っていくということになるかと思えます。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） 再質疑をさせていただきます。

オンラインなので、様々なそういった結合すれば情報が広がったり、それから連携を進めるということはできていくと思いますけれども、先ほどサイバーセキュリティということもおっしゃいましたが、不正アクセスだとか、それから、情報の漏えいですね、そういったことにつながるということはないのでしょうか。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 再質疑にお答えします。

現在もそうですが、我々市のほうでも、情報セキュリティポリシーというのを策定しております。いろんな不正アクセスだとか情報の漏えいが起きないように、資産をしっかり守っていくという体制を整えているつもりでおります。

そうした情報資産の機密性だとか完全性だとか多様性というのを、今後もしっかりと対策を講じて、しっかり守っていくというふうなことに努めていきたいというふうに思っています。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） 4点目です。匿名加工情報とか仮名加工情報についてのことです。

この匿名加工情報というのは、個人が特定できないということで、個人情報ではないというふうにされておりますけれども、この匿名加工情報については、外部提供は都道府県とそれから政令指定都市について義務づけられています。

先ほど、これからやっていくつもりはないということですが、再度確認です。一般市町については、この経過措置としてできるということになっているので、今、犬山市は外部提供していくという考えはあるのか、お示してください。

◎議長（三浦知里君） 17番 久世高裕議員。

◎17番（久世高裕君） 今回出されている議案は、個人情報保護法の施行条例なので、今の議論の主な論点は法に対する議論なんです。だから、これは一般質問等で行うべき部分であって、今回の議案とはちょっと外れているので、その審議の焦点をこの議案に当てていただきますようにご指導をお願いしたいと思います。

◎議長（三浦知里君） 暫時休憩いたします。

午前10時50分 休憩

再 開

午前10時53分 開議

◎議長（三浦知里君） 再開いたします。

17番 久世高裕議員から議事進行がかかりました。趣旨としましては、久世議員のおっしゃるとおりだと思いますので、岡村議員に申し上げますが、この議案に沿った質疑に絞っていただきますよう、よろしくお願いいたします。

しかしながら、今質疑していただいたことには、当局から答弁をいただきますので、今後の質疑について議案に沿った質疑になるように心がけていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） それでは、岡村議員の質疑にお答えします。

匿名情報ということで、情報の開示の一部分かなということもありますので、どう我々が考えているかというところですが、議員おっしゃられたように、我々のほうに義務化をされているものではございませんので、現在、そういった外部から何か情報の問合せもいただいております。したがって、今、外部提供する予定はございません。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） では、次の第14号から第24号議案の関係に移りたいと思います。

定年延長制度のことについてです。別紙の1に、様々な部分を書いてございますけれども、スケジュールにしても結構長いものですし、結構長く時間がかかるものです。いろいろと資料は出されているんですけれども、結構イメージがしにくい部分もあるなということでお尋ねをしたいと思います。

延長のスケジュールについてと、それから、給料、それから退職手当の扱い、それから働き方がどう変わっていくのかについてお示しをいただきたいと思います。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 岡村議員の質疑にお答えします。

今、ご質疑された内容については、この間も説明をいたしました、別紙1に一応取りまとめたというつもりであります。

どういうスケジュール感かというのは、今後、2年置きに1歳ずつ定年が延長されていくということで、実質的には8年後に65歳の定年が定着するということになるかと思います。

それから、退職金の話がちょっと出ましたが、退職金については、基本的にはその人の勤めた年数によりますので、一概には言えませんが、基本的には35年以上勤めていれば、満額まで行っておりますので、基本的にはその額が保障されるということになります。それは要するに先ほど玉置議員が質疑されたときにお答えしましたが、60歳の時点で退職をされても、今までと変わらない退職金を頂けるということになっております。

それから、勤め方としては、先ほどこれも玉置議員のところでもお答えしましたが、基本的には選択肢は3つあると。いわゆる役職定年を迎えて勤めていくという方、それから今までと同じような再任用、再雇用という形で短時間の労働に振り替えるというものと、全く役所とは縁を切ると言っただけなんです、一旦ここでリセットするという、その3パターンであります。

具体的にじゃあ、どういう働き方になるのかというのは、まだ進んでおりませんので、そういう方がどういう部署へ行っ、どういう仕事をするかというのは、これから見極めていく必要があると思っていますので、その前に、その方たちがどういう希望を持っていられるかということも、まだ把握ができておりません。

全員協議会のときもご説明しましたが、来年度の対象者は2名です、たまたまということですので、少しその辺の考える余地もありますので、それ以後の、その方たちにももちろん希望は聞きますが、増えていく段階では、しっかりとご希望を把握しながら、役所としてのパフォーマンスが落ちないような人事配置をしていきたいというふうに思っています。

◎議長（三浦知里君） 岡村議員。

◎5番（岡村千里君） ありがとうございます。賃金については、職務に応じてやっぱり支払われるべきだというふうに思っていて、実質、7割支給となると、減額ということになると思うんですけれども、経験豊かな方たちです、そこら辺のことは難しいと思うんですけれども、ちょっと納得できない部分があると思うんですが、その点についてはいかがでしょうか。

◎議長（三浦知里君） 答弁を求めます。

鈴木経営部長。

◎経営部長（鈴木良元君） 再質疑にお答えします。

今、議員がおっしゃったように、役職定年で、その経験を生かしながらということで、ご説明をさせていただいたときには、例えば部長、課長が役職定年を迎えたら、基本的には恐

らくですが、今の統括主査クラスの仕事を担当していただくという想定をしております。これが安いのか高いのかということになりますが、これは国のほうでもそういう基準を設けてやっておりますので、高い、安いというところで、なかなか言いづらいところですけども、これに従って進んでいくということになるかと思います。

ただ、その先はこれも暫定的な試行の部分もあると思います。当分の間ということが載っておりますので、その間に見極められてくるのかなというふうに思っております。

◎議長（三浦知里君） 他に質疑はございませんか。

〔「なし」の声起こる〕

◎議長（三浦知里君） 質疑なしと認めます。

よって、第1類、第1号議案から第28号議案まで、第30号議案、第31号議案及び第46号議案に対する質疑を終わります。

◎議長（三浦知里君） 以上で、本日の日程は終了いたしました。

明日9日午前10時から本会議を再開いたしまして、残る議案に対する質疑を行います。

本日は、これをもって散会いたします。

午前11時00分 散会